



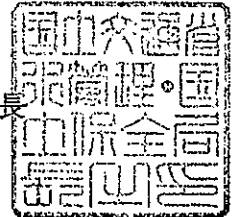
国水環第118号

平成29年3月7日

八千代市長 殿

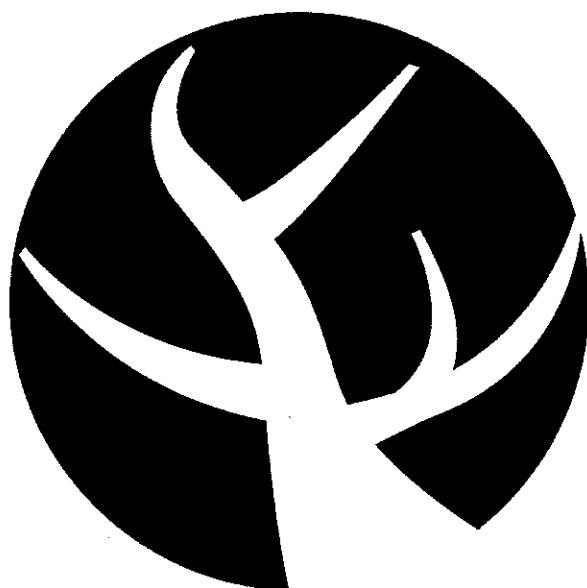
国土交通省

水管理・国土保全局長



「かわまちづくり」計画の変更について

平成29年1月16日付け総企第1300号「かわまちづくり」計画の変更について
(申請)」により申請のあった「かわまちづくり」計画について変更しましたので、通知
します。



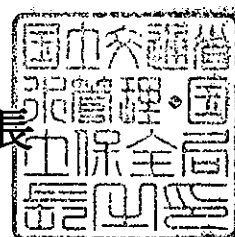
かわまちづくり登録証

「印旛沼流域かわまちづくり」計画

上は平成29年3月7日付け「かわまちづくり」支援制度実施要綱に
基づく変更登録を受けたことを証する。

平成29年3月7日

国土交通省 水管理・国土保全局長



<様式1>



成企第725号
28佐企第273号
総企第1300号
印西企第463号
酒企財第117号
栄企第100号
平成29年 1月16日

(関東地方整備局長経由)
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

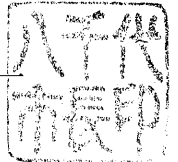
成田市長 小泉 一成



佐倉市長 藤 和雄



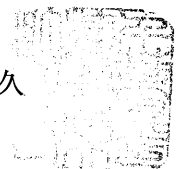
八千代市長 秋葉 就



印西市市長 板倉 正直



酒々井町長 小坂 泰久



栄町長 岡田 正市



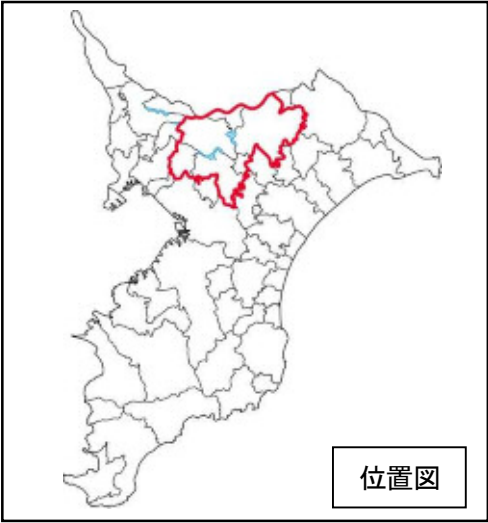
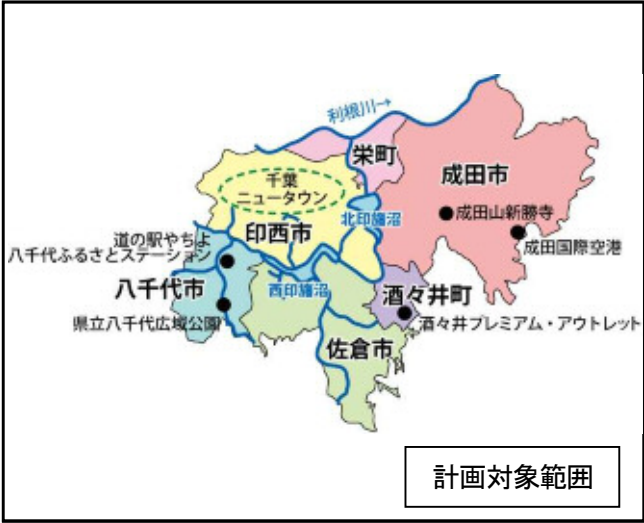
「かわまちづくり」計画の変更について(申請)
「かわまちづくり」支援制度実施要綱第8の規定に基づき、変更申請いたします。

記

計画名：印旛沼流域かわまちづくり計画

<様式 2 >

市町及び河川の概要

1. 市町の概要					
①都道府県名 千葉県					
②市区町村名 成田市、佐倉市、八千代市、印西市、酒々井町、栄町					
 <p style="text-align: right;">位置図</p>			 <p style="text-align: right;">計画対象範囲</p>		
③人口					
成田市	131,564人	(平成26年6月30日現在)			
佐倉市	177,650人	(平成26年6月30日現在)			
八千代市	193,792人	(平成26年6月30日現在)			
印西市	93,657人	(平成26年6月30日現在)			
酒々井町	21,454人	(平成26年7月1日現在)			
栄町	21,700人	(平成26年7月1日現在)			
④面積					
成田市	213.84 km ²	佐倉市	103.69 km ²	八千代市	51.39 km ²
印西市	123.79 km ²	酒々井町	19.01 km ²	栄町	32.51 km ²
⑤市町の特徴					
【成田市】					
<p>成田市は、千葉県の北部中央に位置する中核都市である。北は利根川をへだてて茨城県と接し、西は県立自然公園に指定されている印旛沼、東は香取市と接している。</p> <p>市の西側には根木名川、東側には大須賀川が流れ、それらを取り囲むように広大な水田地帯や肥沃な北総台地の畑地帯が広がっている。北部から東部にかけての丘陵地には工業団地やゴルフ場が点在し、南には日本の空の玄関口・成田国際空港が位置している。</p> <p>また、市の中心部である成田地区は1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参拝客で賑う。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれ伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市である。</p>					
【佐倉市】					
<p>佐倉市は、千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から40kmの距離にある。成田国際空港へは東へ15km、県庁所在地の千葉市へは南西へ20km、市北部には印旛沼が広がる。</p> <p>佐倉市の市域は、印旛沼の南に広がる台地、傾斜地からなっており、その間を鹿島川や高崎川、小竹川などが流れ、印旛沼に注いでいる。標高30m前後の台地は北から南へ向かうほど高くなる。印旛沼周辺、佐倉城址周辺、また東部、南部の農村地帯などには豊かな自然が残っている。</p> <p>京成電鉄本線、JR 総武本線・成田線が市の東西を貫き、都心までおよそ60分、成田国際空港と千葉中心部へはそれぞれ20分である。また、市内には新交通システム(モノレール)によるユーカリが丘線が運行し、バス路線とともに各駅と住宅地を結ぶ市民の足となっている。一方、道路は市の南部に東関東自動車道と、</p>					

国道 51 号が走り、それぞれ東京と成田を結ぶほか、国道 296 号が市を横断する主要な生活道路となっている。

【八千代市】

八千代市は、千葉県北西部に位置し、都心から 31km、千葉市中心部から 13km、成田国際空港へは東へ 26km に位置している。

八千代市の市域は、標高 5～30m のなだらかな台地が広がり、市域の中央を南北に貫くように新川（印旛放水路）が流れている。低地を流れる新川、神崎川、桑納川といった河川の周辺には水田や斜面緑地が広がり、豊かな田園風景をつくっている。

道路は、国道 16 号が南北に、国道 296 号が東西に通過し、鉄道では、京成本線が南端を東西に、東葉高速線が中央部を東西に横断している。

市域のほぼ中央を縦断する新川は、市民の憩いの場となっており、休日には周辺に立地する八千代市立中央図書館、八千代市市民ギャラリー、八千代市総合グラウンドなどに多くの方が訪れている。

市域の南部には、京成本線を中心に既成市街地が広がり、市域中央部には東葉高速線を中心に新市街地が広がる。また、北部には、水田や畑、樹林地が広がり、多くの自然環境が残されている。

【印西市】

印西市は、千葉県北部、東京都心から約 40km、千葉市から約 20km、成田国際空港から約 15km に位置し、西は我孫子市・柏市・白井市に、南は八千代市・佐倉市・酒々井町に、東は成田市・栄町に、北は利根川を隔てて茨城県に接している。

市域は、南東部を印旛沼、北西部を手賀沼、北部を利根川に囲まれ、標高 20 から 30m 程度の平坦な台地と、湖沼周辺の低地により構成されている。また、台地と低地部の境には、低地部から台地に入り込む谷津と呼ばれる地形と斜面緑地によって、地域の特徴的な景観が形成されている。

土地利用は、田畑が約 4 割、山林が約 2 割、宅地が約 1 割となっており、自然環境が多く残されている地域である。JR 成田線沿線の既成市街地や千葉ニュータウンを中心に、市街化が進んでいる。

北総線、JR 成田線が市の東西を貫き、都心までおよそ 40 分、成田国際空港へは 25 分である。一方、道路は東西に国道 464 号北千葉道路と国道 356 号が走り、東京と成田を結んでいる。

【酒々井町】

酒々井町は、千葉県の北部、北総台地の中央に位置し、都心から 50km 圏内にあって、北部に印旛沼、南部には田園地帯が広がり、緑豊かな自然環境に恵まれている。

町名は、親孝行息子の「酒の井伝説」に由来し、明治 22 年の町村制施行により町が誕生して以来、125 年にわたり独立独歩の道を歩み続け、昭和 50 年代の住宅開発により都市機能を備えた町に発展した。

町には約 3 万年前の旧石器時代の遺跡で日本最大級の環状ブロック群「墨古沢南 I 遺跡」、戦国時代の千葉氏の居城「国指定史跡本佐倉城跡」や江戸時代の城下町、成田山参詣客の宿場町としての歴史的景観が残っている。

町内の鉄道は、3 線に 4 駅が配置され、東京へ約 1 時間、成田国際空港へ約 15 分で結ばれている。道路は、国道 51 号、国道 296 号が縦横に走り、東関東自動車道には新たに酒々井 IC が開通し、県内周辺地域や千葉、東京方面への要衝となるとともに隣接地に大型商業施設が開業し、今後の活性化が期待される。

【栄町】

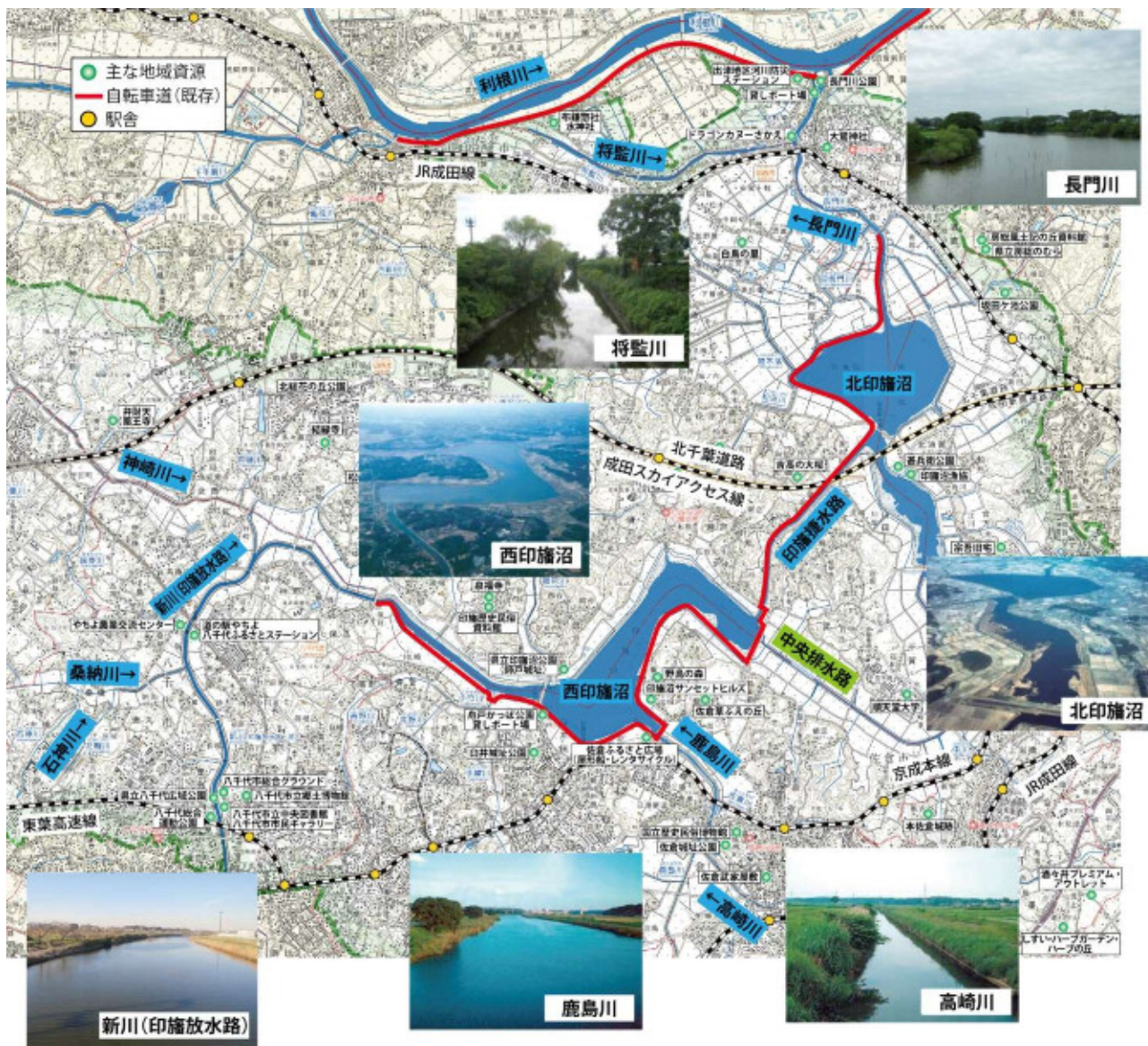
栄町は、千葉県の北部、利根川流域に位置し、東は成田市、南は印旛沼、西は印西市、北は利根川をはさんで茨城県に接し、東京都心より 45km 圏に入り、千葉市からは 35km の距離で、成田国際空港へは 10km のところに位置している。

東西に細長く、東部は一帯に高台で、山林や畑が多く南部及び西北部は平坦で豊かな水田地帯が広がっている。近年、安食駅を中心とした一部周辺区域は、首都圏近郊の住宅地として大きく変わりつつある。

本町の歴史は古く紀元前からすでに丘陵地を中心に集落が形成され、その跡に貝塚が残っており多くの石器や土器が出土している。特に有力な豪族を埋葬したものと推定される岩屋古墳（国指定史跡）をはじめ 110 余基の古墳群が龍角寺地区から酒直地区に点在している。

2. 市町内の河川の概要

①主な河川



「印旛」という漢字は、和銅 6 年（713 年）に筆録された「常陸国風土記」の中で「印波」と記されたのが最古といわれている。印旛沼は、縄文・弥生時代には太平洋に面した内湾の中にある小さな入り江の一つであったが、流域河川が運んでくる土砂等の堆積などで徐々に湖沼化していったといわれている。

印旛沼周辺は、かねてから鬼怒川の出水により多大な被害を受けていたが、江戸初期に利根川の流れを銚子の方向に向かわせようとする「利根川東遷事業」が行われ、これによって利根川の水が印旛沼に逆流し、被害に拍車をかけるようになった。このため江戸期に洪水対策と新田開発などを目的として大規模な工事が約 60 年置きに 3 回行われた。また、明治期以降も度々工事が行われてきたが、今日のような印旛沼の姿になったのは、終戦直後の国の食糧増産計画によって大規模な印旛沼干拓事業が進められ、昭和 44 年（1969 年）に完了してからである。

【印旛沼（西印旛沼、北印旛沼）】

（一級河川利根川水系 流域面積 541.1 km²、5 市町 257.6 km²）

印旛沼は、千葉県の北西部に位置し、西印旛沼と北印旛沼からなる。かつては1つにつながった沼であったが「印旛沼開発事業」で分離され、現在は印旛捷水路によって結ばれている。主な流入河川に、鹿島川、師戸川、手繰川、神崎川、桑納川、印旛放水路がある。

流域面積は約 541km²で、千葉県の面積の約 10%に相当する。流域人口は約 76 万人で、千葉県総人口の約 12%を占めている。

印旛沼は、水資源に乏しい千葉県にとって貴重な水がめであり、工業用水や農業用水、上水道用水として利用されている他、台地・斜面林に囲まれた良好な里山景観を形成しており、また、多くの生物のすみかともなっている。

【鹿島川】

鹿島川は、千葉市土気の「昭和の森」にその源を發し、谷津田の中を北上しながら弥富川、高崎川を合流して西印旛沼に流入する、印旛沼流域で最大の流域面積を持つ河川である。印旛沼開発事業により、河道と水田が整備され、台地には畑が広がり、また谷津や斜面林が比較的多く残る。

【高崎川】

高崎川は、富里市にその源を發し、西方向へ流れる。八街市にその源を發する各支川を合流しながら、下流部で佐倉市街地を貫流して鹿島川に合流する河川で、中～上流部の台地には畑が広がり、谷津や斜面林が残る。

【長門川】

長門川は、酒直水門を通じて印旛沼からの放流を受け、印旛水門で利根川へ接続する。

【将監川】

将監川は、印西市・栄町の市町境に位置し、長門川に接続している。印旛沼開発事業により利根川からの流入口をふさいだため、現在では法定河川ではないものの、「川」として親しまれている。

【新川（印旛放水路）】

印旛放水路は、西印旛沼から八千代市村上地先の大和田排水機場を経て、千葉市美浜区の東京湾までの一級河川である。印旛放水路のほぼ中央にあたる大和田排水機場より上流を新川と呼び、下流は花見川と呼ばれている。

【桑納川】

桑納川は、八千代市の西側に接する船橋市との境界から、八千代市域をほぼ東西に流れ、八千代市の中央部にて新川に合流する一級河川である。

【神崎川】

神崎川は、白井市より流入し、八千代市と白井市及び印西市との境界を流れて、新川に合流する一級河川である。

【石神川】

石神川は、八千代市大和田新田にその源を發し、石神川防災調節池を經由して、桑納川へ合流する一級河川である。

②河川と市町との関わり

印旛沼は、工業用水や農業用水、上水道用水の貴重な水源としてのみならず、水産、レジャー、親水、そして観光などに利用され、なかでも、水源としての印旛沼は、千葉県民の“命”はもとより、日本経済の一端を担う重要な水がめである。

印旛沼に河川や流域から流入する水量は、年によって変動がみられるが、最近5カ年（平成21～25年）の平均では4億1,680万tである。また、沼水位低下時の利根川からの揚水量は、最近5カ年（平成21～25年）の平均では1,510万tである。したがって、両方を合わせた印旛沼の水量は、4億3,190万tになる*1。

このうち、工業用水として1億5,280万t（流入水量の35.4%）、農業用水として5,610万t（13.0%）、上水道用水として3,670万t（8.5%）の計2億4,560万tが利用され、利水以外の自流1億8,630万t（43.1%）は、自然放流（約69%）と強制放流（約31%）により、利根川と東京湾へ排水される*1。

工業用水については、東京湾臨海工業地帯59社（JFEスチール含む）*2*3に給水され、工業生産額は4兆円程度*4と推定される。農業用水については、印旛沼土地改良区の受益農地など約6,400ha*5に給水されている。主要農産物である水稻の印旛沼土地改良区の収穫量は3万5,000t程度、農業産出額にして75億円程度*6*7と推計される。また、上水道用水については、市川市、浦安市、千葉市、船橋市、習志野市、市原市、佐倉市、八街市、富里市、四街道市、酒々井町の全域あるいは一部区域に給水されている*8*9。なお、給水される11市町の総人口（≠給水人口）は県総人口の約3分の1に相当する*10。

水産面では、内水面漁業が行われ、コイ、フナ、モツゴなど多くの魚種を対象として漁獲できる「張網」漁法が一般的に用いられている。また、レジャー、観光面では、魚釣りやサイクリング、各種イベントなどで年間を通して利用され、親しまれている。

また、流域6市町総合計画や都市マスタープランでは、水質浄化や憩いの場・親水空間の確保、および里沼環境を活かした交流促進等の方針が位置づけられている。

*1 独立行政法人 水資源機構 千葉用水総合管理所のデータ

*2 千葉地区工業用水道事業 (<http://www.pref.chiba.lg.jp/kigyou/kykanri/kougyouyousui/chiku/chiba.html>)

*3 五井姉崎地区工業用水道事業 (<http://www.pref.chiba.lg.jp/kigyou/kykanri/kougyouyousui/chiku/anesaki.html>)

*4 独立行政法人 水資源機構 千葉用水総合管理所ホームページ：Q&A

(http://www.water.go.jp/kanto/chiba/frame/q_a/qa.html) での「平成12年度の工業用水1億7千万トンにおける工業生産額約4兆2千億円」から推定した。

*5 印旛沼土地改良区ホームページ：印旛沼土地改良区ってなあに？ (<http://www.inbanuma-lid.jp/04/prof.htm>) によると印旛沼土地改良区の受益農地などは約6,400ha。

*6 農林水産省 関東農政局千葉地域センター：農林水産統計 - 平成25年産水稻市町村別作付面積及び収穫量（千葉県） (http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/pdf/12-25-05.pdf) によると、千葉県の水稲収穫量（子実用）337,400t、5市町の水稲作付面積8,600haおよびその収穫量（子実用）47,540t。印旛沼土地改良区の面積当りの水稲収穫量（子実用）を千葉県全体のそれと同程度と仮定し、印旛沼土地改良区の受益農地など約6,400haにおける水稲収穫量（子実用）35,000t \approx 35,380t（=47,540t \times 6,400ha/8,600ha）程度と推計した。

*7 農林水産省 大臣官房統計部：農林水産統計 - 平成25年農業産出額及び生産農業所得（都道府県別） (http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/pdf/shotoku_kenbetsu_13.pdf) によると、千葉県全体の農業産出額710億円。印旛沼土地改良区の水稲収穫量（子実用）当りの農業産出額を千葉県全体のそれと同程度と仮定し、印旛沼土地改良区の受益農地など約6,400haにおける農業産出額75億円（=710億円 \times 印旛沼土地改良区の受益農地などの水稲収穫量（子実用）35,380t/千葉県の水稲収穫量（子実用）337,400t）程度と推計した。

*8 千葉県水道局ホームページ：配水系統図

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/suidou/souki/2nd-page/documents/haisuikeitouzu.pdf>)

*9 千葉県水道局ホームページ：印旛広域水道 送水系統図

(<http://www.catv296.ne.jp/~kouiki-w/data/sousuikeitouzu4.pdf>)

*10 千葉県ホームページ：各市町村の住民基本台帳人口（平成26年1月1日）

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/shichou/gyousei/juamoto/shichousonjinkou.html>) によると、11市町の合計人口は約2,243,000人である。これは、全県人口約6,248,000人の約3分の1に相当する。

③これまで実施済み及び実施中の関連施策

■印旛沼流域水循環健全化会議（平成13年～）

千葉県では、平成13年に、印旛沼及びその流域が抱える多くの課題（水質や生物、治水等）を解決するため、関係者（住民・市民団体、専門家、関係機関、行政等）で構成される「印旛沼流域水循環健全化会議（通称：健全化会議）」を設立した。

平成15年には、主に印旛沼内での水質改善対策の検討・実施に特化した「水質改善技術検討会（通称：水質検討会）」を設立し、流域及び沼内における対策の二本柱で進めている。平成22年には、平成42年度を目標年次とした「印旛沼流域水循環健全化計画」を策定し、この計画に基づいて、以下のとおり総合的な取り組みを実践している。

<実施中の取り組み>

植生帯整備等の沼内対策（水質技術検討会）、かわまちづくり・親水整備（水と地域のネットワークWG）、市街地面源対策（浸透WG）、生活排水対策（生活排水WG）、生態系保全（生態系WG）、環境学習の推進（学びWG） など

<イベント開催>

印旛沼わいわい会議、印旛沼再生行動大会、印旛沼流域環境・体験フェア など

<モニタリング>

印旛沼利用実態調査 など

■印旛沼広域河川改修事業（平成16年度～）

千葉県では、1時間当たり50mm程度の降雨に対応した河川整備を進めており、印旛沼の周囲堤約L=30kmの築堤を実施している。なお、この事業は、「社会資本総合整備計画（水の安全・安心基盤整備）」、及び流域の健全な水循環を目指した「印旛沼流域水循環健全化計画（平成22年1月策定）」における第1期行動計画に位置付けられている。

■印旛沼自転車道（県道八千代印旛栄自転車道線）整備（昭和60年度～）

印旛沼および流入河川の沿川には自転車道が整備され、平成26年（2014年）4月現在、起点の県道八千代宗像線の阿宗橋から終点の国道356号のふじみ橋までの約27kmのうち、起点から栄町の酒直水門までの約22kmが整備され、印旛沼およびその周辺の自然を楽しむことができる。残る約5kmについては、検討が進められている。

■佐倉ふるさと広場整備（昭和62年～平成6年）

佐倉市は、古くからオランダとの交流が深く、「日新の医学、佐倉の林中より生ず」といわれるほど佐倉藩の蘭医学は全国に知られた。このような経緯から昭和62年に佐倉日蘭協会が設立され、国際交流の場としてこの「佐倉ふるさと広場」が整備された。平成元年には日蘭修好380周年を記念してこの佐倉ふるさと広場にチューリップを植える「チューリップまつり」が開催されるようになり、平成6年には佐倉市の市制40周年を記念してオランダ風車「リーフデ」が建設された。この風車は、日本では初となる水汲み風車で、メカニズム部分をオランダで製造し、オランダの技師により建設された本格的なものである。

■江川の親水河川整備（平成11年～）

成田市が管理する江川は、北印旛沼へ流入する約1,200haの流域面積をもつ準用河川である。

指定延長は3.2kmであり、起点は台方地先印旛沼より終点大袋地先国道464号までの区間である。平成11年度より下流から整備、平成22年度まで橋川橋までの約1.9km区間を整備している。その区間の整備は、多自然型とし、3箇所の親水護岸を整備している。（準用河川整備工事（江川））

■北千葉道路整備事業（平成17年～）

国道464号北千葉道路は、成田国際空港へのアクセス強化、東葛飾地域や千葉ニュータウンと成田周辺地域との連携強化等を目的とした、市川市（東京外かく環状道路）から成田市に至る延長約43kmの幹線道路である。

このうち、千葉ニュータウン（印西市）から成田市間の約 13.5km について、成田新高速鉄道と一体的な整備を図ることとし、国、千葉県、鉄道事業者で協同して整備を進めている。

現道の国道 464 号は、印西市から成田市を結ぶ東西方向の主要な幹線道路であるが、幅員が狭く屈曲しているため、幹線道路として十分機能していない状況であり、北千葉道路の整備により、沿線地域相互の交流・連携の促進、物流の効率化、交通の円滑化等が期待できる。

■その他アクセス道路整備

北千葉道路以外にも、主要地方道鎌ヶ谷本埜線は千葉ニュータウンと成田国際空港を結ぶ幹線道路として延長 4,500m、幅員が 16m から 18m の路線であり、平成 8 年度より事業が着手され進められている。

また、成田都市計画道路 3・4・30 号 赤坂台方線は、平成 28 年 3 月 24 日に整備が完了し、成田ニュータウンの赤坂地先から、成田市台方地先の国道 464 号に接続する延長約 2.2km の路線が開通している。

④市民等の河川利活用状況

- ・印旛沼付近一帯は、県立自然公園（印旛手賀自然公園）に指定されており、東京湾と利根川を結ぶ広域的なサイクリングロードの一部として、印旛沼沿いに自転車道が整備されており、スポーツや環境保全に関する活動やイベントが活発である。また、日常的にウォーキング、ハイキング、サイクリングなどに利用されている。
- ・北印旛沼・西印旛沼の両沼は、四季を通し、有数の魚釣り場（ヘラブナなど）として多くの釣り客に利用されているほか、湖畔ではハスやアサザなどの水生植物の観察や野鳥観察なども行われている。
- ・西印旛沼に位置する、佐倉市の「佐倉ふるさと広場」には、風車や休憩所が整備され、多くの人に利用されているほか、当該広場を拠点として、4 月～10 月の期間で「観光船」が運航される。また、毎年 4 月に「佐倉チューリップフェスタ」などのイベントが開催される。
- ・そのほか、西印旛沼周辺では、印旛沼沿いの桜並木、オランダ風車、田園風景を走るコースで、毎年 1 万人以上の参加者が参加する、「佐倉朝日健康マラソン」や湖畔での「佐倉市民花火大会」が開催される。
- ・北印旛沼周辺では、「成田エアポートツーデーマーチ」（成田市）や、ごみ・空き缶などを拾いながら北印旛沼をハイキングする「印旛沼クリーンハイキング」（成田市）、北印旛沼や長門川のほつりを走る「さかえりバーサイドマラソン」（栄町）などのイベントが行われている。
- ・将監川、長門川では、30 人乗りの大型カヌーである「ドラゴン・カヌー」の運行を行っている。
- ・両沼沿いには、6 次産業施設「マルシェ・かしま」（西印旛沼）や「北須賀直売所まこも」（北印旛沼）などの商業施設があり、観光客や地元客に利用されている。
- ・新川（印旛放水路）は、そのおよそ 10km におよぶ区間の両岸に、約 1,200 本を擁する千本桜の名所であり、八千代市総合グラウンドや新川遊歩道を利用した「ニューリバーロードレース in 八千代」が毎年 12 月に開催されている。また、新川の村上橋周辺では、毎年 8 月に「やちよふるさと親子まつり」が開催され、多くの観光客が訪れている。
- ・流域には、健康・スポーツに関する学科をもつ大学があり、流域市町と連携に関する協定書を締結しているなど、今後の健康に関連する取り組みの連携についても期待できる。
- ・印旛沼は、鉄道駅から約 2～3km と距離があり、また、周辺が優良農地となっていることから、既存の駐車場は、双子公園等、数か所にとどまっており、印旛沼へのアクセスの向上が課題となっている。



佐倉市民花火大会



佐倉の観光船



佐倉チューリップフェスタ



印旛沼クリーンハイキング



さかえりバーサイドマラソン



ドラゴン・カヌー



ふるさと親子まつり



源右衛門祭

水辺とまちづくりに関する基本方針

1. 流域6市町の上位・関連計画における印旛沼の位置づけ

【成田市】

- ・ 成田市総合計画「NARITA みらいプラン」(平成28年3月)において、印旛沼については「印旛沼流域の自治体として、水質の改善に努める」ことが位置づけられている。
- ・ 成田市環境基本計画(平成26年3月)において、里地や水辺の自然環境を守るため「根木名川、印旛沼などの河川や池沼の水質浄化と、水辺環境の保全に努める」ことが位置づけられている。

【佐倉市】

- ・ 佐倉市第4次総合計画(平成23年度)において、印旛沼は佐倉市の自然のシンボルとされ、「印旛沼周辺の自然環境の保全」や「印旛沼流域の水循環の健全化」、「印旛沼湖畔の自然環境を活かした観光拠点の充実、交流人口の拡大」が位置づけられている。
- ・ 佐倉市都市マスタープラン(平成23年度)において、印旛沼周辺は、「水辺を利用するいきものたちに配慮した親しみのある水辺の形成を図る」地域として、「佐倉市の自然のシンボルである印旛沼とその周辺を活用する」ことが位置づけられている。
- ・ また佐倉市では、農山漁村振興交付金事業を活用し、「佐倉草ぶえの丘」において①滞在型市民農園、②滞在型シェアハウス、③農産物加工施設・調理体験施設、④直売所の整備などを、「サンセットヒルズ」において①市民農園・観光農園、②コミュニティールーム、③シャワールームなどの整備を、「佐倉ふるさと広場」において①佐欄花の改修・作業棟、船着場などの整備を計画している。
- ・ 佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年10月)の基本目標及び第4次佐倉市総合計画後期基本計画(平成28年度)の重点施策において、観光客誘致の取組として「印旛沼周辺地域の更なる魅力の向上」を位置付けている。

【八千代市】

- ・ 八千代市第4次総合計画後期基本計画(平成28年3月)において、「新川及びその周辺の一体的な活用」がリーディングプロジェクトの1つとして位置づけられている。
- ・ 八千代市都市マスタープラン改定版(平成26年3月)において、新川や桑納川とその周辺は、「市民のふれあいネットワークゾーン」として位置づけられている。
- ・ 八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年3月)において、魅力創出プロジェクトの具体的な取組みの1つとして「新川周辺のまちおこし」が掲げられている。

【印西市】

- ・ 印西市総合計画基本構想(平成24年3月)において、印旛沼周辺は「田園居住ゾーン」として、「今後も印旛沼などの水辺環境の保全と活用などを通して親水性の向上を図っていく」ことが位置づけられている。また、印西市総合計画第2次基本計画(平成28年3月)において、印旛沼周辺について、「地域資源としての活用を進めるとともに、千葉県や他市町と連携しながらPRに取り組み、その魅力や知名度の向上を図る」ことが位置づけられている。
- ・ 印西市都市マスタープラン(平成25年3月)において、印旛沼、印旛捷水路などの水辺を地域資源としており、水や緑の自然軸として印旛捷水路(印旛水路)・印旛沼畔(印旛沼サイクリングロード)、水と緑のレクリエーション拠点として県立印旛沼公園周辺が位置づけられている。

【酒々井町】

- ・ 第5次酒々井町総合計画基本構想(平成23年12月)において、「印旛沼新田や高崎川周辺の水田や北部地域の畑地などは施策を講じて優良な農地として保全していく」ことが位置づけられている。また、印旛沼については、環境保全・改善として、「水質汚濁防止のため、生活排水対策の必要性について啓発し、水質汚濁に対する町民の理解を促していく」こと、「印旛沼の水質保全や憩いとくつろぎの場としての水辺空間の保全に努める」ことが位置づけられている。さらに、中央排水路については、「中央排水路を整備して「水の道」とし、酒々井町は、「陸の道」と「水の道」の結節点となることを目指す」ことが記載されている。

- ・酒々井町都市計画マスタープラン（平成26年3月）において、人や物の主要な動線を示す「軸」として「印旛沼中央低地排水路、中川及び高崎川など、本町の豊かな水環境やその周辺に広がる自然・生態系を環境軸として位置づけ、都市に潤いを与える貴重な資源として適切な管理・保全・活用を図ります」とのことで位置づけられている。
- ・酒々井町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月）において、「地方への新しい人の流れをつくる酒々井づくり」の具体的施策として「酒の井をシンボルとした酒々井の歴史・里山・里沼を活かした交流支援の拠点づくりの推進」が位置づけられている。

【栄町】

- ・栄町第4次総合計画基本構想（平成27年3月一部変更）において、利根川及び長門川、将監川などの水辺空間は、豊かな自然環境が魅力であることから、その地域資源を保存し、また、活用を図る区域を「自然レクリエーションゾーン」として位置づけられている。

上述のとおり、印旛沼流域6市町の上位計画（総合計画、都市計画マスタープラン）において、印旛沼及びその周辺の里山などについては、良好な景観や生物の生息場として保全されるとともに、住民の憩いの場として活用に努めることが位置付けられている。

また、佐倉市では、印旛沼周辺地域の活性化推進プラン（平成25年11月）を策定し、印旛沼湖畔の「ふるさと広場」及び周辺丘陵地の「草ぶえの丘」、「サンセットヒルズ」を中心とした印旛沼周辺地域について、自然体験や農作業体験等を行うグリーンツーリズムや余暇体験活動等が盛んに行われる地域になることをめざし、下記のとおり施策の方向性を位置付けている。

■印旛沼周辺地域の活性化推進プランにおける施策の方向性

市民や来街者が、食の学びや農業体験のほか、さまざまな余暇活動等を楽しむことができる事業を推進します。また、地域の特性を踏まえた魅力づくりを検討するとともに情報発信を強化していきます。これらの施策により、地域農業の活性化に繋げていきます。

1 農業を体験する機会の提供

- ・滞在型市民農園や観光農園で農業を体験する機会を整備するとともに、農業の持つ役割や農業の知識・技術を学ぶ機会を提供します。

2 余暇活動等を楽しむ機会の提供

- ・都市部住民と農業を営む住民の地域間交流の機会を創出します。
- ・子どもたちが、自然に触れ合いながら、印旛沼や農業等について学ぶ機会を充実します。
- ・地域農産物が購入できる直売所を整備するとともに、地域食材を使うなどした食事を楽しんだり、食育を推進するための機会を整備します。
- ・印旛沼周辺の自然や景観を楽しむ場の整備を図るとともに、体験型余暇活動が楽しめる機会を充実します。
- ・対象地域にある公共施設（佐倉草ぶえの丘、サンセットヒルズ、佐倉ふるさと広場）を中心とした施設の整備充実を図るとともに、施設間の回遊性を高めるための取組み等を推進します。

3 印旛沼周辺地域の魅力づくりと情報発信

- ・都市と農村を行き交う新たなライフスタイルを広めるため、地域の特性を生かした印旛沼周辺地域の魅力づくりを進めるとともに、情報発信を強化します。

2. 印旛沼沿岸における水辺とまちづくりに関する課題

印旛沼及びその流域には、都心や成田国際空港から近距離にありながら、貴重な里沼環境（水辺+里山）が残されており、周辺には数多くの歴史・文化資産が点在している。また東京湾と利根川を結ぶサイクリングロードの一部として、約22kmにわたって自転車道が整備されており、マラソン大会やウォーキングイベントが開催されるなど、スポーツ活動が盛んである。

また、近年では、東関東自動車道酒々井IC付近に大型商業施設が立地しインバウンドが増加しているほか、サイクリング等のアクティビティやグリーンツーリズムなどの着地型観光が定着してきている。さらに、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、成田国際空港を玄関口として外国人観光客などの

増加が見込まれているなど、印旛沼流域の利活用のポテンシャルが一層高まってきている。

一方で、印旛沼は全国湖沼水質ワースト1になるなど汚いイメージがある。また、自転車道はあるものの水面が見えない区間もあり、休憩できるポイントや水辺に近づく場所が少ない、公共交通機関が少なく鉄道駅からの距離があり、周辺に駐車場が無く、水辺へのアクセスが悪いこと等により、水辺環境を十分には活かされていない面がある。

また、人口減少・超高齢社会となり都市間競争が激化しており、台風の大型化や局地的豪雨の増加など地球温暖化による災害リスクの増大、水質悪化、インフラの維持管理の重要性の高まりを踏まえ、水辺の利活用などまちの魅力向上と併せて地域防災力の高いまちづくりが求められている。

3. 印旛沼流域かわまちづくり基本方針

上述の上位計画及び課題等を踏まえ、水辺及び周辺里山の自然環境、景観、歴史・文化、地元農産物・水産物等の地域資源をネットワークで結び、サイクリングやウォーキング等のアクティビティを組み合わせた、印旛沼流域の総合的な利活用を推進することにより、『(個人) 心と身体の健康』、『(地域) 経済活性化』、および印旛沼への関心を高めることで『(流域) 水質改善 (水循環健全化)』を図るとともに、併せて『地域防災力の向上』を図ることとし、これらに必要となる以下のハード整備及びソフト施策を実施する。

(1) 流域のブランド力の強化 (ソフト施策)

個人及び市民団体、企業、大学等の関係者と連携し、総合的なソフト施策を展開する。

- ①既存利活用プログラム・イベントとの連携及び活用
- ②新規利活用プログラム・イベントの開発
- ③情報発信の強化・充実
- ④印旛沼流域の魅力の強化、ブランド力の強化

(2) 利用基盤の充実 (ハード整備)

印旛沼及び流入河川における親水性及び防災機能、印旛沼へのアクセス向上に資するハード整備を実施する。

- ①一里塚 (ミニ拠点) 整備
- ②水辺拠点整備
- ③道路整備 (※道路事業)
- ④その他関連する印旛沼周辺整備 (※佐倉市事業ほか)

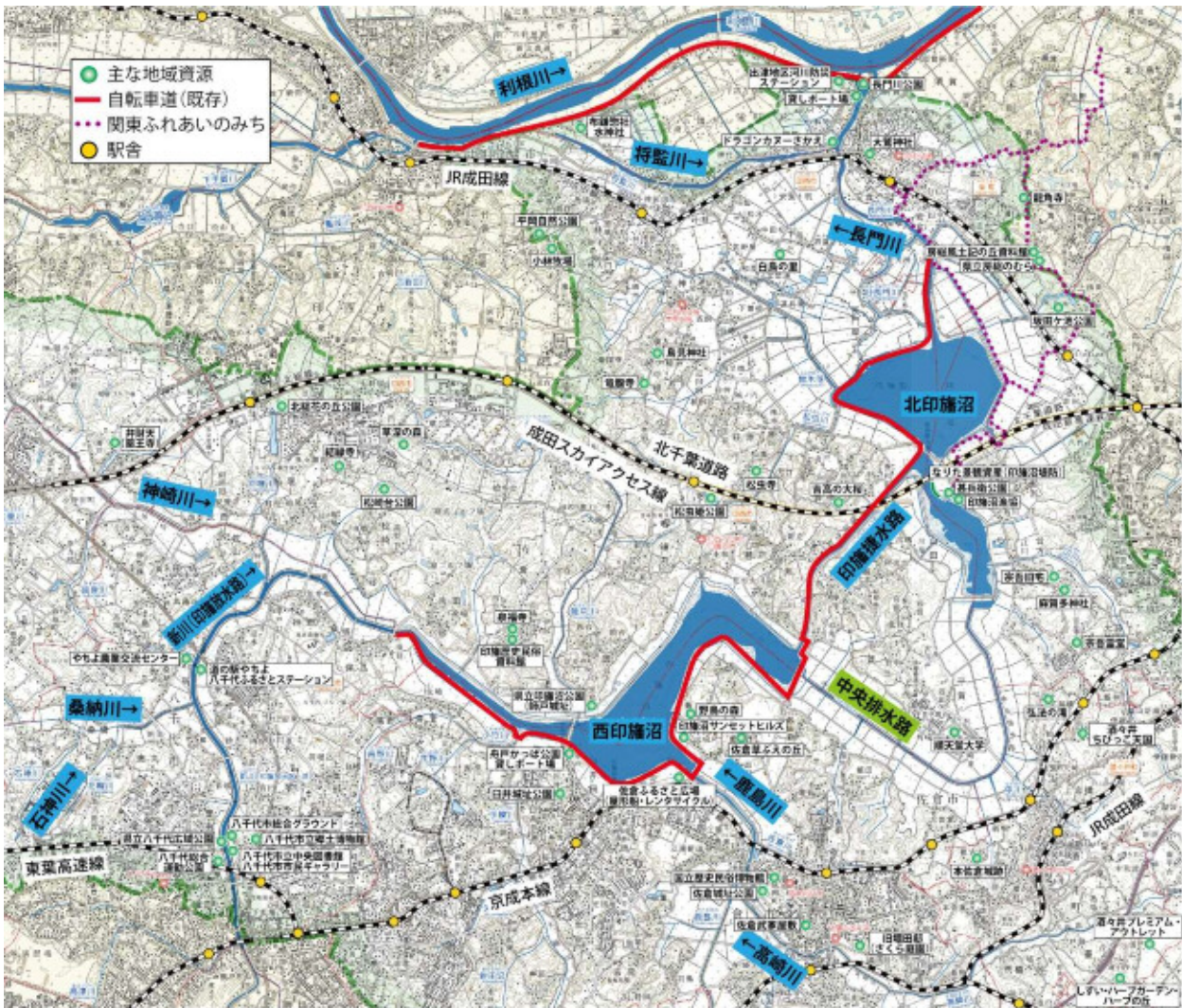
1. 河川名

利根川水系 西印旛沼、北印旛沼、印旛捷水路、長門川、印旛放水路、鹿島川、高崎川、将監川 等

2. 施策の実施範囲

印旛沼周辺 (成田市、佐倉市、八千代市、印西市、酒々井町、栄町全域)

3. 施策概要



前掲した基本方針に基づき、以下のソフト施策を展開する。

(1) 既存利活用プログラム・イベントとの連携及び活用

① マラソン大会における印旛沼の広報

佐倉朝日健康マラソン、さかえリバーサイドマラソンやニューリバーロードレース in 八千代といったマラソン大会等に連携し、印旛沼流域かわまちづくりのチラシ配布など効果的な広報を実施する。

② 民間企業と連携したアクティビティ・イベントの開催

京成さわやかウォークや東葉健康ウォーク、北総ウォーク等のイベントを主催する鉄道事業者や順天堂大学、千葉県ウォーキング協会等と連携し、印旛沼流域をフィールドとしたアクティビティ・イベントを開催する。

佐倉朝日健康マラソン コースマップ (2014年大会)



(2) 新規利活用プログラム・イベントの開発

①印旛沼ダムカードの配布

印旛沼流域におけるアクティビティと組み合わせることにより、印旛沼の効果的広報及び集客力の強化を図るため、印旛沼ダムカードを配布する。

印旛沼ダムカードイメージ



②健康プログラムの開発・普及

順天堂大学や千葉県ウォーキング協会、印旛沼湖畔の6次産業施設等と連携し、魅力的なウォーキングコースや、高齢者の健康増進、女性のエクササイズ、ヘルシー食等を組み合わせた健康プログラムの開発を行う。また、健康プログラムについて、地元地域や企業における福利厚生活動での活用について普及を図る。

③最新アクティビティの導入・新規イベントの開催

順天堂大学や民間企業等と連携し、印旛沼の水辺や周辺丘陵地等の特性を活かすことができ、近年注目されているトレイル・ランニングやスタンド・アップ・パドルボード (SUP)、ノルディック・ウォーク、水陸両用バス等の導入を図る。また、印旛沼の特性を活かしたサイクリングやフィッシングのイベントの開催等を企画する。

七時雨マウンテントレイルフェス



SUP イメージ



ノルディック・ウォーク(順天堂大学)



(3) 情報発信の強化・充実

①アクティビティ・コースマップのプラットフォームの設置

行政、市民団体等が作成しているウォーキングマップ等を、総合的に閲覧及びダウンロードできるプラットフォームを「いんばぬま情報広場」サイト内に設置する。

②地域資産の情報発信のパッケージ化

上記①を発展させ、複数市町がもっている地域資産の情報発信の流域パッケージ化を図る。

③広報に関する企業等との連携強化

成田国際空港株式会社や鉄道会社等、民間企業等と広報に関する連携強化を図る。



(4) 印旛沼流域の魅力・ブランド力の強化

① 景観のブラッシュアップ

印旛沼連携プログラム等を活用し、住民や市民団体、企業等の関係者と連携した清掃等により、景観のブラッシュアップを図る。

西印旛沼における一斉清掃の様子（佐倉市HPより）



印旛沼クリーンハイキングの様子



② 水辺のカフェ等の導入

河川敷地占用許可の特例を活用し、民間企業による水辺のカフェ等の導入を図る。

広島／京橋川のオープンカフェ設置前後の様子



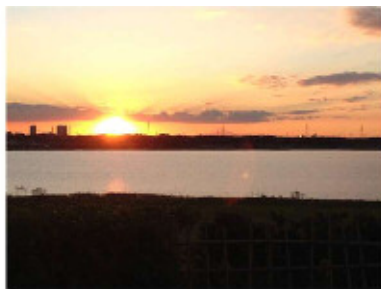
③ 印旛沼八景の選定及び活用

印旛沼写真展等を開催し、印旛沼の良い景観スポットを八景として選定し、ウォーキングコース等に組み込むなど活用する。

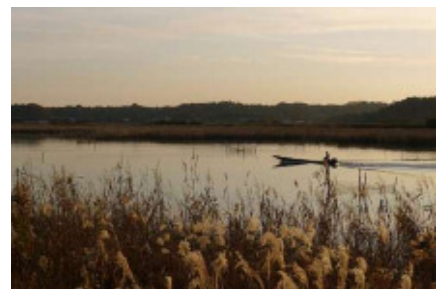
印旛捷水路



サンセットヒルズからの眺め

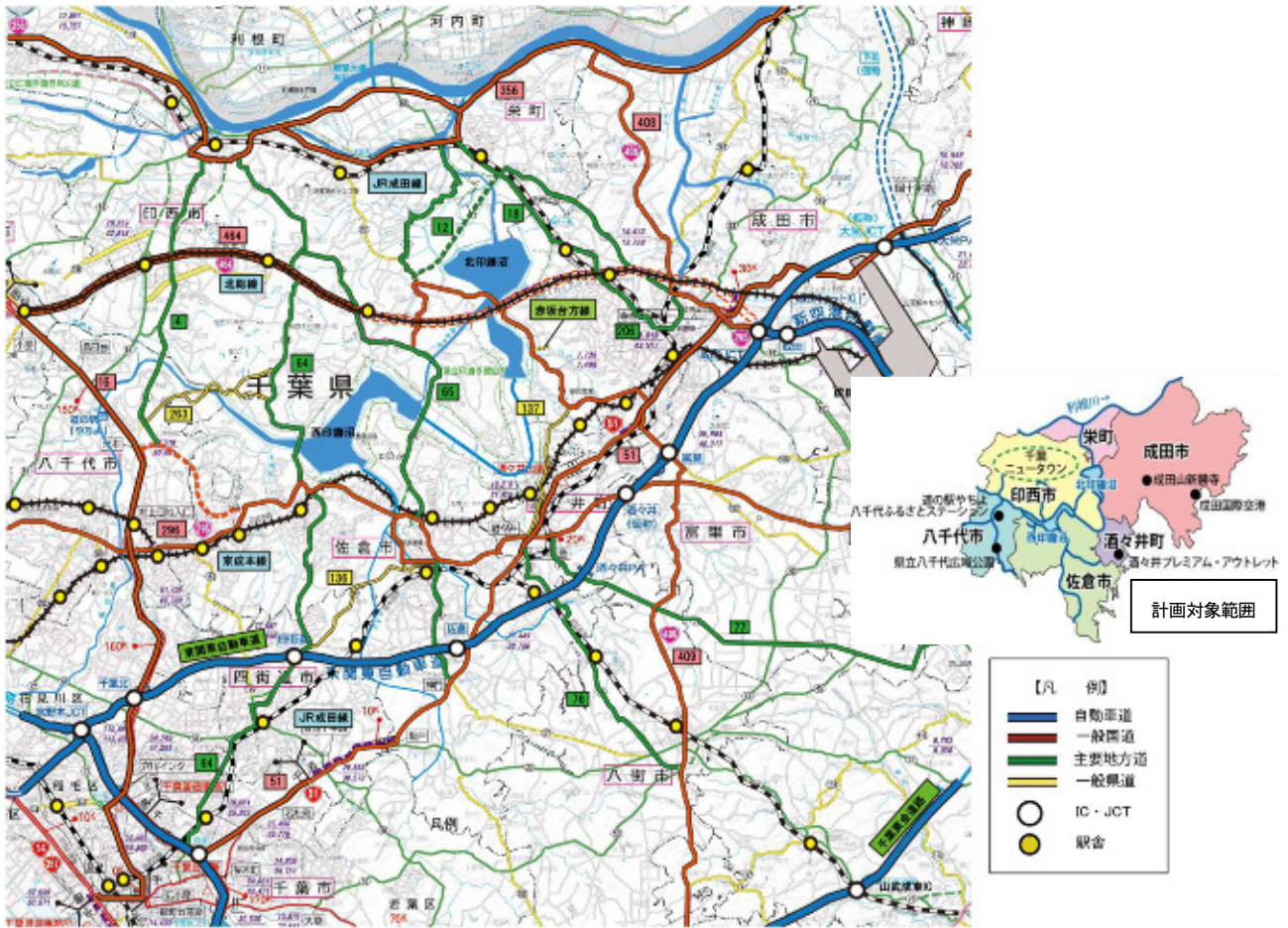


なりた景観資産（印旛沼堤防からの眺め）



イベント・行事	実施主体	実施場所	実施時期	備考
さかえリバーサイドマラソン	さかえリバーサイドマラソン実行委員会	ふれあいプラザさかえ～長門川～北印旛沼湖畔	2月上旬	
佐倉朝日健康マラソン大会	佐倉朝日健康マラソン大会実行委員会・朝日新聞社	岩名運動公園～西印旛沼湖畔など	3月下旬	
佐倉チューリップフェスタ	佐倉市・佐倉市観光協会	佐倉ふるさと広場	4月上旬～下旬	
源右衛門祭	源右衛門祭実行委員会	八千代総合運動公園	4月上旬	
吉高の大桜の花見		旧印旛村吉高	4月中旬	
五月祭	佐倉草ぶえの丘	佐倉草ぶえの丘	5月上旬	
成田エアポート・ツーデーマーチ	成田エアポート・ツーデーマーチ実行委員会	成田市及び芝山町の里山など	5月中旬～下旬	
ローズフェスティバル	佐倉草ぶえの丘	佐倉草ぶえの丘	5月下旬～6月上旬	
いんばふれ愛フェスタ (県民の日印旛地域行事)	県民の日印旛地域実行委員会	印旛地域会場 (平成26年度：成田国際空港第2ターミナル前中央広場)	6月中旬	
順天堂大学裸まつり	順天堂大学	中央台地区	6月初旬	
風車のひまわりガーデン	佐倉市	佐倉ふるさと広場	7月上旬～下旬	
佐倉市民花火大会	佐倉市民花火大会実行委員会	佐倉ふるさと広場周辺・西印旛沼湖畔	8月上旬	
SAKAE リバーサイド・フェスティバル	SAKAE リバーサイド・フェスティバル実行委員会	利根川河川敷	8月下旬	
八千代ふるさと親子まつり	八千代ふるさと親子祭実行委員会	八千代総合運動公園	8月下旬	
鉄道会社と連携したウォーキングイベント	鉄道会社	印旛沼湖畔及び周辺丘陵地	9月下旬(予定)	調整中
酒々井・千葉氏まつり	酒々井・千葉氏まつり実行委員会	中央台公園など	10月上旬	
NARITA 花火大会 in 印旛沼	NARITA 花火大会実行委員会	成田市台方地先	10月中旬	
佐倉の秋祭り	佐倉の秋祭り実行委員会	旧城下町新町通り	10月中旬	
印旛沼クリーンハイキング	なりた環境ネットワーク	北印旛沼湖畔など	10月中旬	
佐倉コスモスフェスタ	佐倉市観光協会	佐倉ふるさと広場	10月中旬	
印旛沼流域環境・体験フェア	千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議	佐倉ふるさと広場付近	10月下旬	
酒々井町史跡ウォーキング	酒々井町史跡ウォーキング実行委員会	本佐倉城跡などの史跡	10月中旬	
八千代どーんと祭	八千代どーんと祭実行委員会	八千代総合運動公園	10月下旬	
ニューリバーロードレース in 八千代	ニューリバーロードレース in 八千代実行委員会	新川遊歩道、八千代市総合グラウンド等	12月中旬	

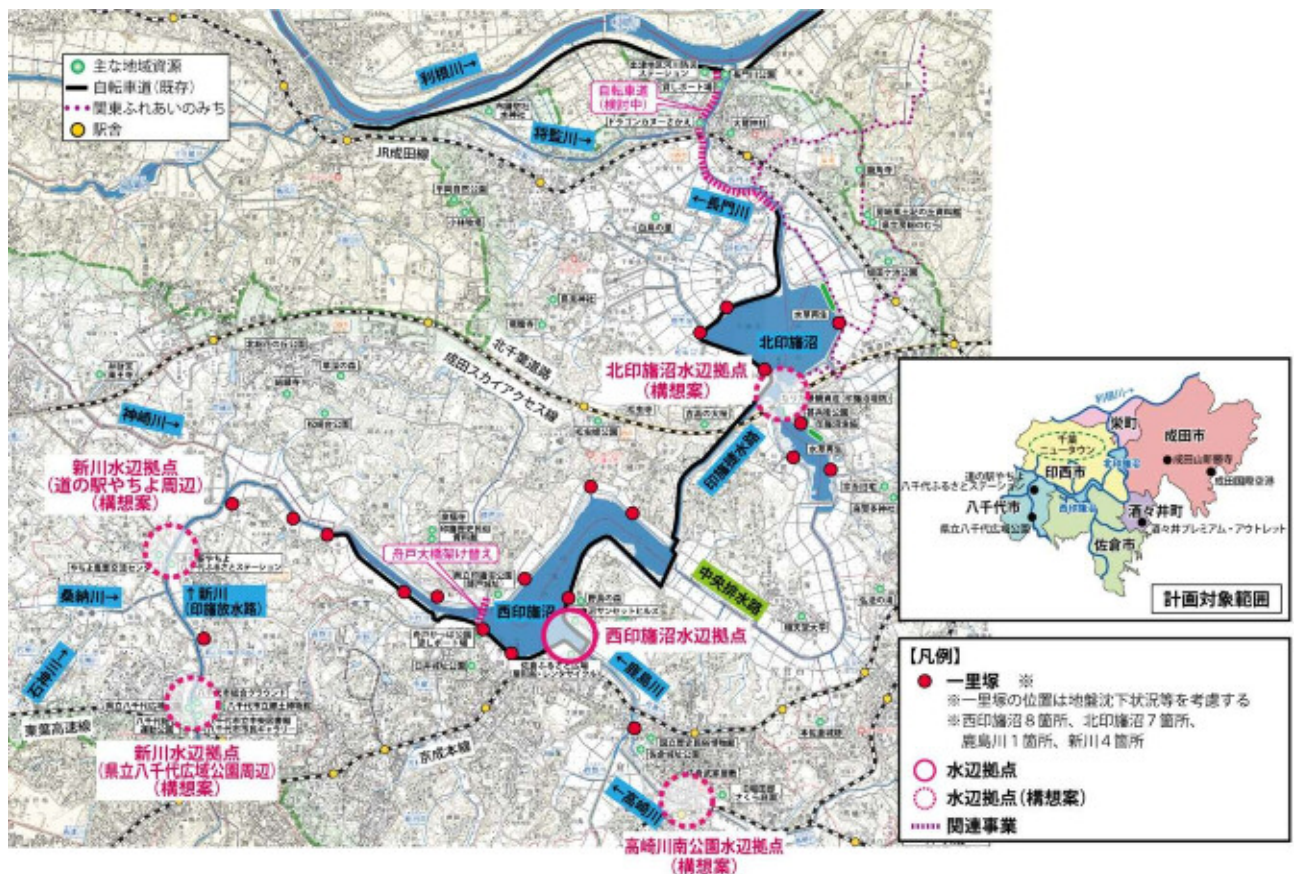
(参考) 位置図 (印旛沼流域かわまちづくり計画は印旛沼流域6市町全域を対象とする)



支援整備内容の概要（ハード整備）

<p>1. 河川名</p> <p>利根川水系 西印旛沼、北印旛沼、印旛捷水路、長門川、印旛放水路、鹿島川、高崎川、将監川 等</p>
<p>2. 整備範囲</p> <p>印旛沼周辺、鹿島川、高崎川、新川（印旛放水路）</p>
<p>3. 整備内容</p> <p>前掲した基本方針に基づき、以下のハード整備を行う。</p> <p>(1) 一里塚（ミニ拠点）整備（20箇所）</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備箇所：西印旛沼、北印旛沼、鹿島川、新川（印旛放水路） 整備内容：「防災」「景観」「利用」「交通結節点」「情報発信」機能を有する一里塚（ミニ拠点）を整備する。 <p>(2) 水辺拠点整備（1箇所及び構想案4箇所）</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備箇所：西印旛沼 佐倉ふるさと広場周辺 北印旛沼 北須賀甚兵衛大橋周辺（構想案） 高崎川 高崎川南公園周辺（構想案） 新川（道の駅やちよ周辺）（構想案） 新川（県立八千代広域公園周辺）（構想案） 整備内容：西印旛沼において、緊急時における水防活動、船着き場、日常時における維持管理、アクティビティの拠点機能を有する水辺拠点を整備する。

位置図



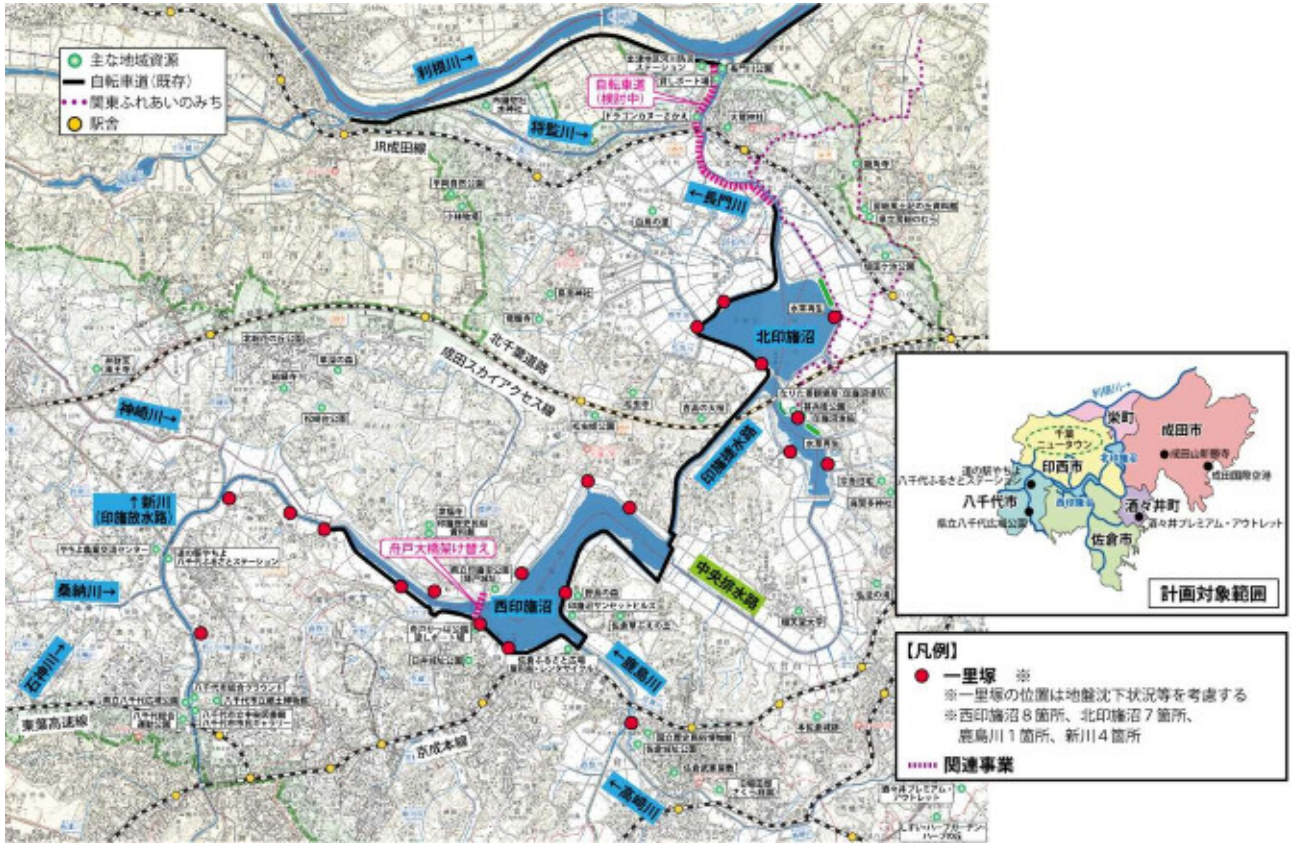
※千葉県地域防災計画等の見直しに合わせて、拠点等の位置づけを図る。

1. 整備内容名

① 一里塚整備

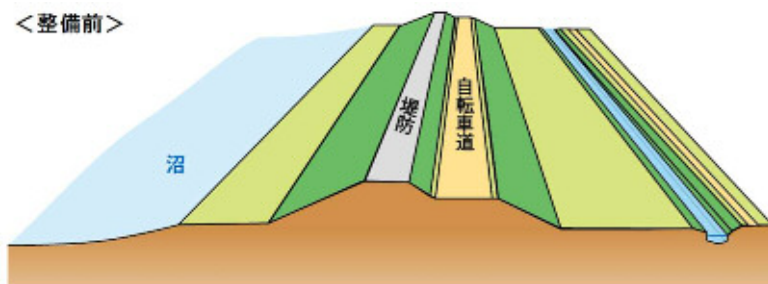
2. 整備概要

①整備箇所

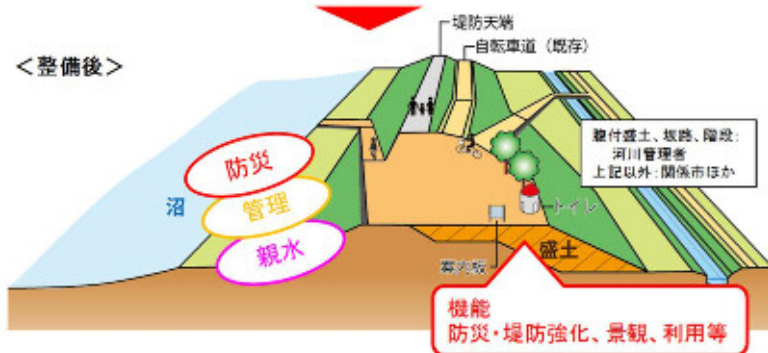


②整備概要・整備イメージ※

<整備前>



<整備後>



※一里塚の詳細な構造・上面整備は、地盤や周辺の状況、求められる機能等を踏まえる

3. 整備の必要性、有効性

- 一里塚を整備することにより、以下の機能向上を図る。(求められる機能は個別箇所による)
- [防災面] ①堤防の腹付け盛土や護岸による堤体の強化(治水安全度の向上)、②盛土材の水防活動への活用
 - [管理面] 日常時の巡視点検の効率性及び精度の向上
 - [親水面] 沼の水際の観賞・観察
 - [景観面] ①沼の水辺景観への眺望、②周辺の里山景観への眺望
 - [休息面] ①サイクリング、ウォーキング、ジョギング等の休息の場の提供、②緑陰の場の提供
 - [結節面] ①沼沿いの動線と沼へのアクセス動線の結節、②サイクリング、ウォーキングと舟運との結節
③舟運での乗降ポイント
 - [情報面] ①ルートマップ、立寄りスポット等の情報(案内板による)の提供
②沼へのアクセス・景観ポイントとして視認(東屋、緑陰樹)、立寄りの誘導

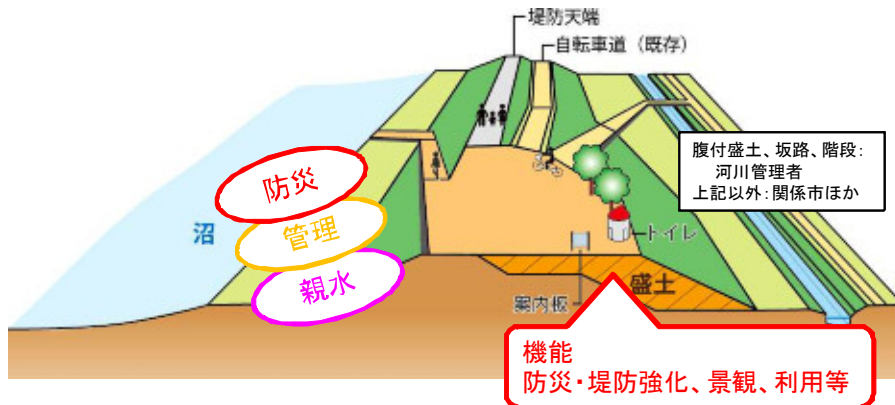
4. 整備の実現方策

■関連事業の整備計画

- ・河川管理者が堤防の腹付け盛土や坂路、階段等の基盤整備を実施し、市町等が必要に応じて利活用促進のためのトイレ、ベンチ、看板、駐車場等の施設整備を実施する。
- ・一里塚の詳細な構造・上面整備は、地盤や周辺の状況、求められる機能等を踏まえる。

■整備工程

整備内容		事業主体	H27	H28	H29	H30	H31
基盤整備	盛土、坂路、階段等	千葉県	—————				
施設整備	トイレ、ベンチ、看板、駐車場等	成田市、佐倉市、八千代市、印西市	—————				



5. 推進体制

- ・成田市、佐倉市、八千代市、印西市、酒々井町、栄町、千葉県、水資源機構、国土交通省、市民団体、有識者などで構成する、印旛沼流域水循環健全化会議水と地域のネットワークWGにおいて、関係者間の調整を図りつつ、ハード整備及びソフト施策を推進する。

6. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- ・防災時: 水防活動のミニ拠点、盛土材を水防活動で活用
- ・日常時: 巡視点検及び維持管理のアクセス
サイクリング等の休憩及びビュースポット
情報発信、アイストップ(目印)
舟運での乗降ポイント

②維持管理計画

- ・以下の役割分担により維持管理を行う。
河川構造物と一体的な構造物など：千葉県 その他：関連市ほか
- ・日常的な施設管理、清掃等については、印旛沼に関連する市民団体との連携を図る。

7. 特徴

既存の自転車道等を有効活用しつつ、水辺拠点整備及び一里塚（ミニ拠点）を整備することで、水と地域のネットワークを形成し、広域の水辺利用の促進等、効果的・効率的に機能向上を図ることができる。
一里塚の盛土材は、浚渫土等を有効活用することとしている。

③整備のイメージパース（西印旛沼水辺拠点）



※イメージパースであり、詳細を今後検討

3. 整備の必要性、有効性																														
<p>西印旛沼水辺拠点について、佐倉市都市マスタープランにおいて、佐倉ふるさと広場等の観光拠点の整備・拡充を図ることを方針として位置づけており、また、印旛沼周辺地域活性化プランに基づく面整備が計画されている。これらの上位計画及び事業と合わせて、水辺拠点を整備することにより、防災及び親水・利活用機能の向上を図る。</p> <p>また、北印旛沼、高崎川及び新川（印旛放水路）においては構想案を位置付ける。</p>																														
4. 整備の実現方策																														
<p>■関連事業の整備計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度より佐倉市の印旛沼周辺地域活性化プランに基づく面整備が事業化されており、河川管理者においても平成 27 年度から西印旛沼水辺拠点の詳細設計等に着手し、早期整備を図る。 <p>■整備工程</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">整備内容</th> <th>事業主体</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基盤整備</td> <td>高水敷、護岸、坂路、階段 等</td> <td>千葉県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設整備</td> <td>船着場、駐車場 等</td> <td>成田市、佐倉市、八千代市</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							整備内容		事業主体	H27	H28	H29	H30	H31	基盤整備	高水敷、護岸、坂路、階段 等	千葉県						施設整備	船着場、駐車場 等	成田市、佐倉市、八千代市					
整備内容		事業主体	H27	H28	H29	H30	H31																							
基盤整備	高水敷、護岸、坂路、階段 等	千葉県																												
施設整備	船着場、駐車場 等	成田市、佐倉市、八千代市																												
5. 推進体制																														
<ul style="list-style-type: none"> 成田市、佐倉市、八千代市、印西市、酒々井町、栄町、千葉県、水資源機構、国土交通省、市民団体、有識者などで構成する、印旛沼流域水循環健全化会議水と地域のネットワークWGにおいて、関係者間の調整を図りつつ、ハード整備及びソフト施策を推進する。 																														
6. 有効利用および維持管理																														
<p>①有効利用に関する計画</p> <p><西印旛沼水辺拠点></p> <ul style="list-style-type: none"> 防災時：緊急船着場、水防活動上の拠点 日常時：植生帯整備や浚渫工事、治水上支障となる外来植物駆除時における作業船の発着所 佐倉ふるさと広場等と連携、活用した、サイクリングや舟運等による印旛沼周辺地域の活性化策、水辺のアクティビティの拠点 <p><高崎川水辺拠点>（構想案）</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災時：緊急船着場、水防活動上の拠点 日常時：佐倉市の表玄関である JR 佐倉駅と連携した、舟運等による高崎川等の印旛沼周辺の活性化策、水辺のアクティビティの拠点 <p><新川水辺拠点（道の駅やちよ周辺）>（構想案）</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災時：緊急船着場、水防活動上の拠点 日常時：国道 16 号沿いの道の駅やちよと連携し、新川の水辺の賑わいを創出する水辺の拠点。印旛沼とサイクリングや舟運等の連携を図り、印旛沼周辺の活性化となる水辺のアクティビティの拠点 <p><新川水辺拠点（県立八千代広域公園周辺）>（構想案）</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災時：緊急船着場、水防活動上の拠点 日常時：八千代市総合グラウンドや、八千代市立中央図書館・八千代市市民ギャラリーが立地する県立八千代広域公園と連携し、新川の水辺の賑わいを創出する水辺の拠点。印旛沼とサイクリングや舟運等の連携を図り、印旛沼周辺の活性化となる水辺のアクティビティの拠点 																														

②維持管理計画

- ・以下の役割分担により維持管理を行う。
河川構造物と一体的な構造物など：千葉県 その他：関連市ほか
- ・日常的な施設管理、清掃等については、印旛沼に関連する市民団体との連携を図る。

7. 特徴

既存の自転車道等を有効活用しつつ、水辺拠点整備及び一里塚（ミニ拠点）を整備することで、水と地域のネットワークを形成し、広域の水辺利用の促進等、効果的・効率的に機能向上を図ることができる。

道の駅やちよ 八千代ふるさとステーション、やちよ農業交流センター

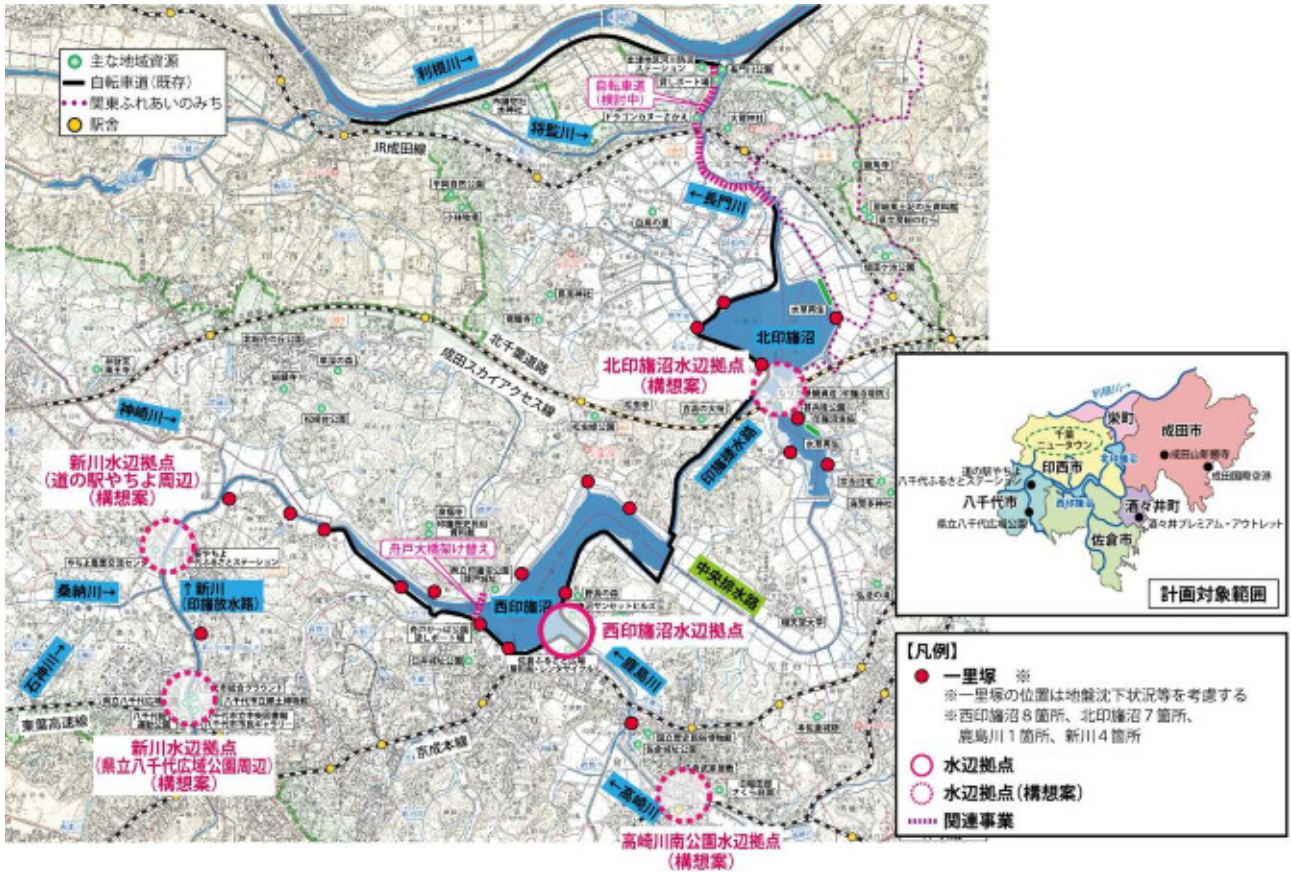


八千代市総合グラウンド、八千代市立中央図書館・八千代市市民ギャラリー



(今後の検討項目)

北印旛沼水辺拠点、利根川合流点水辺拠点、中央排水路水辺拠点、西印旛沼湖畔沿いルート、中央排水路水辺沿いルート、鹿島川・高崎川ルートについては、今後、整備内容及び役割分担等の検討を行う。



※印旛捷水路沿いの印旛沼自転車道によって北印旛沼と西印旛沼が結ばれていることから、両沼の周遊性を高める中央排水路沿いのルートについて検討する。

※西印旛沼を周遊できるように西印旛沼北側の湖畔沿いのルートについて検討する。

※高崎川南公園水辺拠点 (構想案) と西印旛沼水辺拠点を舟運で結ぶ鹿島川・高崎川ルートの現況調査や河道掘削等について検討する。

(八千代市等との連携による広域展開イメージ)

現在、印旛沼流域かわまちづくりの検討を行っている「水と地域のネットワークWG」において、平成26年度から八千代市がオブザーバー参加し、平成28年度からメンバーとして加わるようになった。

八千代市において水辺拠点を構想する「道の駅やちよ 八千代ふるさとステーション」は、市を縦断する国道16号に隣接しており、また新川の対岸には、ペDESTリアンデッキで往来が可能な、「やちよ農業交流センター」が配置されている。ここに水辺拠点を整備することにより、国道16号と連携する広域な道路ネットワークと河川の結節点が誕生する。

同じく水辺拠点を構想する、「県立八千代広域公園」は、新川を含む兩岸を計画地としており、村上側は東西線直通の東葉高速線村上駅から徒歩10分の立地である。ここに構想する水辺拠点は、都心から印旛沼流域への玄関口、また鉄道・河川・道路の結節点となり、水辺へのアクセスの向上、さらには都心部からの人の流れが生まれることで、印旛沼流域かわまちづくりの更なる活性化が期待できる。

八千代市及び千葉市との連携が具体化すれば、田園地帯から都市部へ、さらには利根川から印旛沼を通じて東京湾へのつながりが創出され、より広域的なかかわまちづくりの展開の可能性が期待される。

また、水運を活用することで災害時におけるリダンダンシー向上となる。



水運を活用した災害時におけるリダンダンシー向上イメージ (ベースマップ© google map)

※リダンダンシー：自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながるよう予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様。

(健康ウォーキングのモニターツアー概要)

印旛沼流域かわまちづくりにおけるソフト施策に関するプレ調査として、アクティビティにおいて裾野が広いウォーキングに着目し、モニターツアーを実施した。

このプログラムを通じて、ウォーキングに対するニーズを把握することができたほか、民間企業や大学、市民団体等との連携体制の下地づくりや課題の抽出を行うなど、フィージビリティスタディを行った。

- 開催日時 平成26年11月1日(土)
- 開催場所 西印旛沼周辺12kmコース
(西印旛沼湖畔、丘陵地、歴史施設等)
- 参加者 20名
(京成線駅舎等へのチラシ掲出、WEBにて公募)
- 当日の天候 雨のち曇り
- 終了後のアンケート概要
 - 全体的に、「良い」「だいたい良い」で約9割
 - 今後も印旛沼のウォーキングイベントに「参加したい」が約9割
 - 支払い意思額は、1,000円が最多
約2割程度は、2,000円~3,000円支払い意思あり

(印旛沼健康ウォーキングによるココロとカラダのリフレッシュ効果：POMSによる)

- POMS: Profile of Mood States—Brief Form
- 「緊張」「抑うつ」「怒り」「活気」「疲労」「混乱」の6つの尺度についてアンケート調査を行い、気分や感情の状態を簡便に測定する手法
- 今回は、ウォーキングイベントの前後でPOMS質問事項に回答したものを比較
- 印旛沼健康ウォーキングがココロとカラダのリフレッシュに効果があることを確認

【20人男女の平均値】

